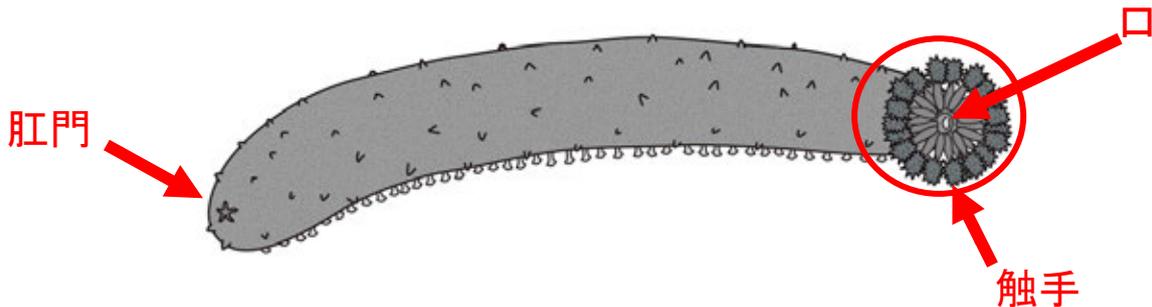


沖縄美ら海水族館 海のふしぎ 発見シート

中級編 解説

問1. 正解 (イラスト参照)



「イノーの生き物たち」水槽のニセクロナマコをよく観察すると、体の片側に触手と呼ばれる器官が付いているのが分かります。この触手のある方が口です。ナマコは口の周りにある何本もの触手を使って砂を口に運び入れ、砂粒についている有機物などを食べます。消化されない砂はフンとして、口の反対側にあるおしりの穴（肛門）から排出されます。

問2. 正解 B (動物)

「サンゴの海」水槽に展示されている色々な形をしたサンゴ。動かないサンゴはまるで植物のように見えますが、イソギンチャクやクラゲの仲間に近い動物です（初級編 解説 問2参照）。

問3. 正解 クマノミの仲間

イソギンチャクの触手には刺胞と呼ばれる毒針があり、多くの魚はこれに触れると刺されてしまいます。クマノミの場合、特殊な粘液が体を覆っているため、イソギンチャクの毒針に刺されることはありません。クマノミの仲間は、イソギンチャクのそばでくらすことで、クマノミを襲う大型の魚から身を守っています。

問4. 正解 A (チンアナゴ)

正解 D (ニシキアナゴ)

チンアナゴの仲間は潮通しのよい砂底に生息しています。砂の中から上半身を出し、潮の流れに顔を向けて流れてくる小動物を食べます。日本に生息するチンアナゴの仲間5種のうち、「サンゴ礁への旅 個水槽」に展示されているのは「チンアナゴ」と「ニシキアナゴ」。チンアナゴは白地に黒色の“てんてん”模様、ニシキアナゴは白と黄色の“しましま”模様です。

問5. 正解 C (コバンザメ)

「黒潮の海」水槽には、大きな魚にピタッとくっつくのが得意な魚「コバンザメ」がいます。サメという名前が付いていますが、サメの仲間ではなく、硬骨魚こうこつぎょの仲間です（サメ博士の部屋編 解説 問2参照）。頭の上に背ビレが変化してきた吸盤きゅうばんがあり、大きな魚やウミガメにくっついて生活しています。大型生物にくっつくことで、敵から身を守るだけでなく、移動や摂餌せつじなどに関して利益を得ています。

※ジシャクザメ、キュウバンザメという名前の魚はいません。

問6. 正解 B (ダイオウイカ)

正解 A (マッコウクジラ)

「深海への旅」エリアの手前には、大きなイカの標本が設置されています。深海に生息するこのイカの名前は「ダイオウイカ」です。標本は1994年に沖縄県で捕獲されたもので、腕を含めた全長は6m37cm。大きなものでは全長20mにもなると言われており、1匹の大きさとしては無脊椎動物の中で最大の生物です。この大きなイカを食べるのが、全長15mにもなる「マッコウクジラ」です。

※「ジンベエザメ」・「ナンヨウマンタ」：体は大きいですが、小さなエビや小魚など小動物を食べています。